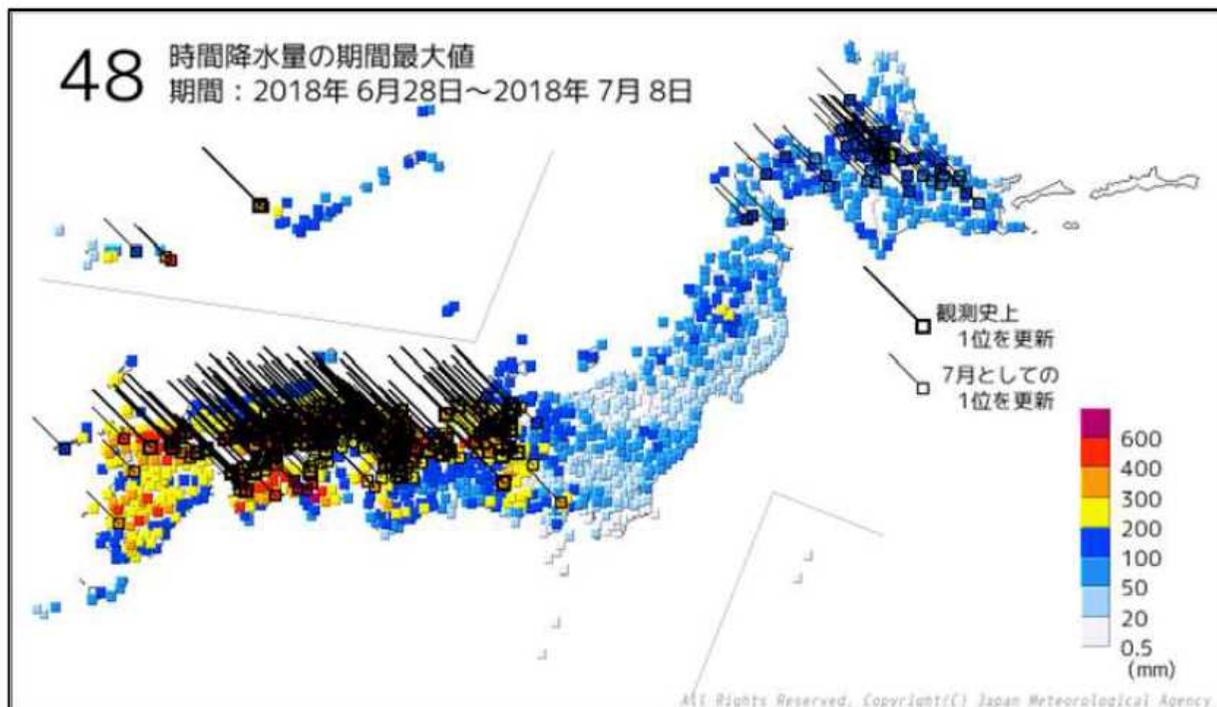


1. 平成30年7月豪雨災害の概要と被害の特徴

平成30年7月豪雨による降雨(概要)

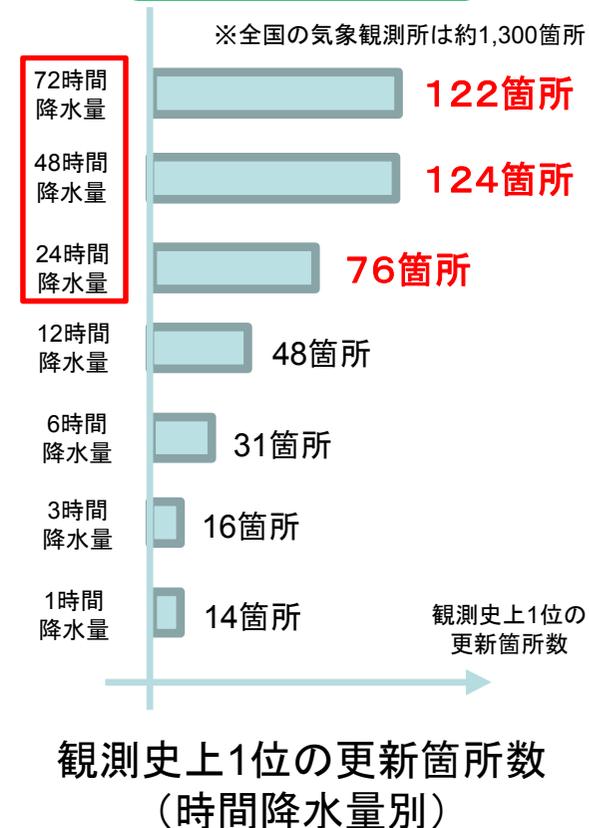
- 平成30年7月豪雨により、**西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨。**
- 特に**長時間の降水量**について多くの観測地点で観測史上1位を更新。

広い範囲で記録的な大雨



48時間降水量の期間最大値(期間2018年6月28日～7月8日)

長期間の大雨



平成30年7月豪雨による被害の発生状況

- 平成30年7月豪雨により、西日本を中心に、広域的かつ同時多発的に河川の氾濫、がけ崩れ等が発生。
- これにより、死者223名、行方不明者8名、家屋の全半壊等20,663棟、家屋浸水29,766棟の極めて甚大な被害が広範囲で発生。^{※1}

※1: 消防庁「平成30年7月豪雨及び台風第12号による被害状況及び消防機関等の対応状況(第56報)」(平成30年9月10日(月)14時00分)

■岡山県倉敷市真備町の浸水状況



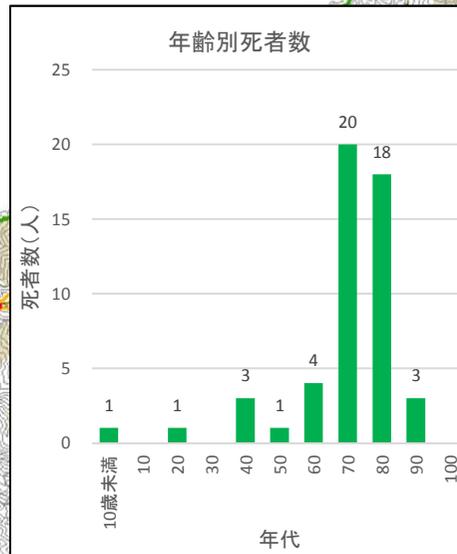
■愛媛県大洲市の浸水状況



小田川(倉敷市真備町)では、**洪水浸水想定区域と実際の浸水範囲がほぼ一致**にもかかわらず、**51名が死亡**。特に死者の**約8割が70歳以上**。

<凡例>

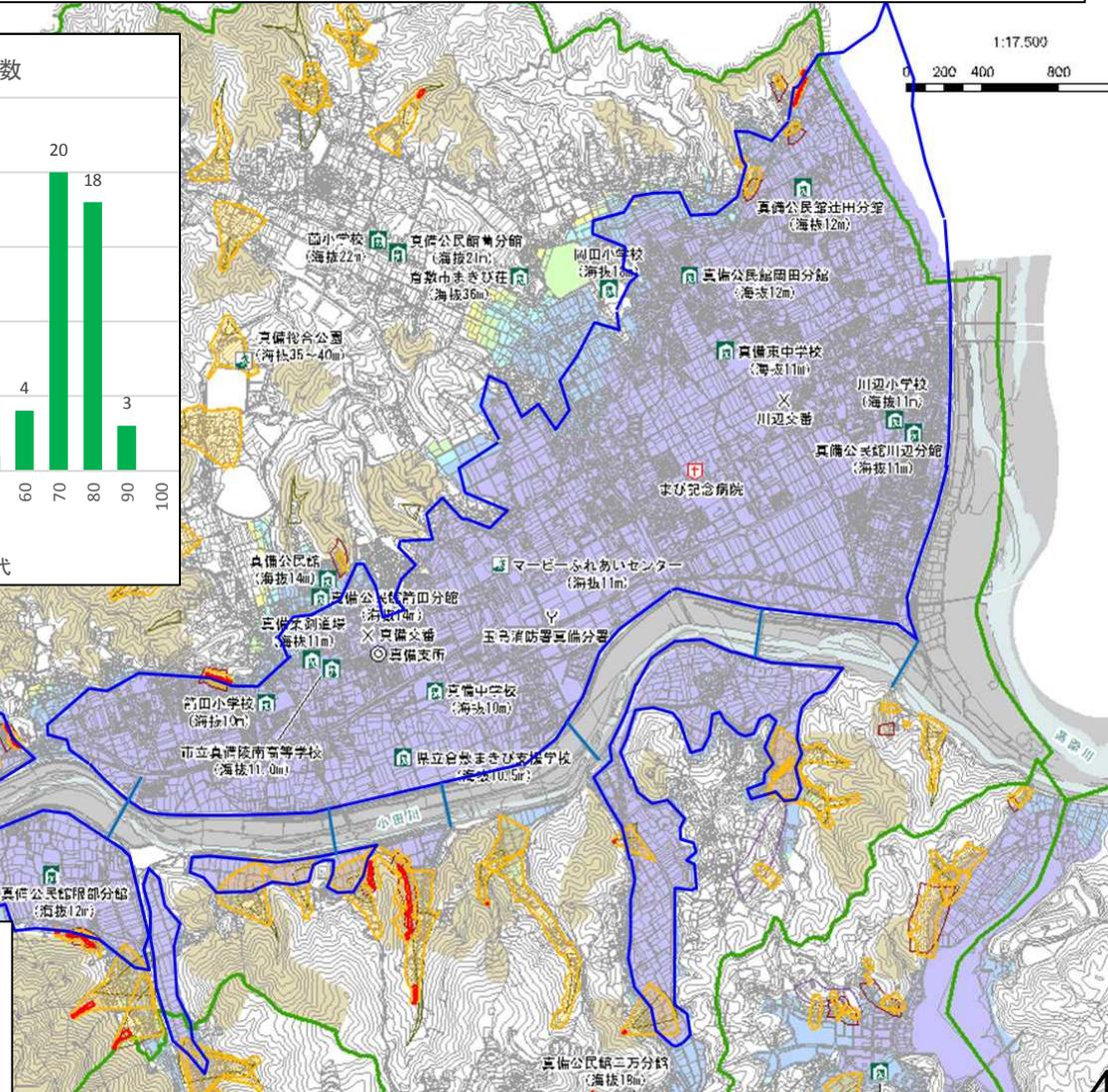
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 土石流危険渓流(氾濫想定範囲)
- 地すべり危険箇所
- 山地災害危険地区
- 浸水深5.0m以上の区域
- 浸水深2.0m以上5.0m未満の区域
- 浸水深1.0m以上2.0m未満の区域
- 浸水深0.5m以上1.0m未満の区域
- 浸水深0.5m未満の区域



<凡例>

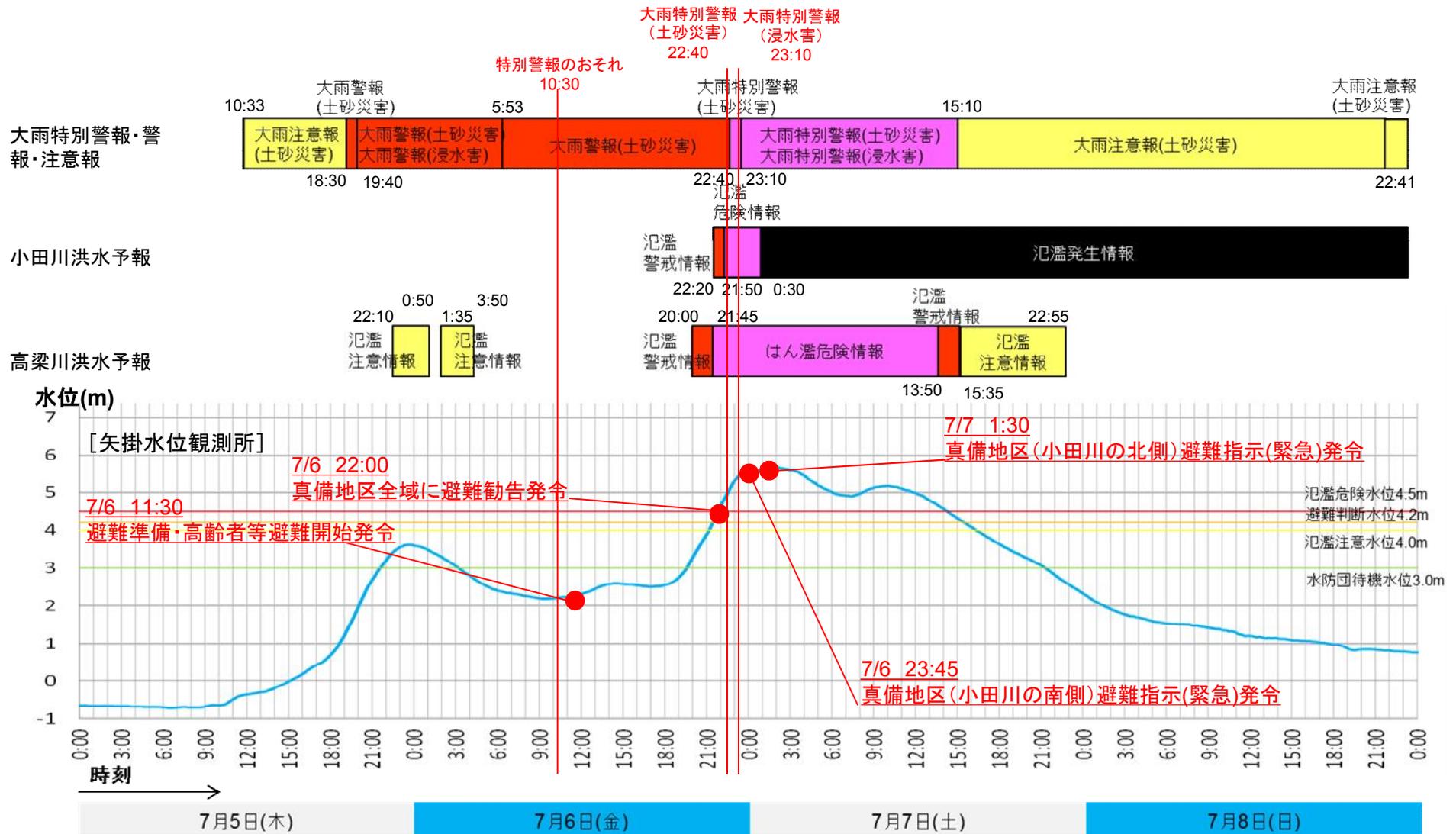
- 浸水範囲 (H30.7洪水)
- ※国土地理院作成の浸水推定段彩図より複写

※倉敷市の洪水・土砂災害ハザードマップにH30年7月豪雨における実際の浸水範囲を加筆



高梁川水系小田川における危険情報の発表状況

小田川(倉敷市真備町)では、洪水予報、避難指示など様々な危険情報を発表



平成30年7月豪雨以降の土砂災害の発生状況

9月25日時点

平成30年7月豪雨では、西日本を中心に、**広域的かつ同時多発的**に土砂災害が発生。

土砂災害発生件数
(7月2日以降を集計)

(都道府県報告)
1道2府28県
2,512件*

土石流等 : 769件
地すべり : 55件
がけ崩れ : 1,688件

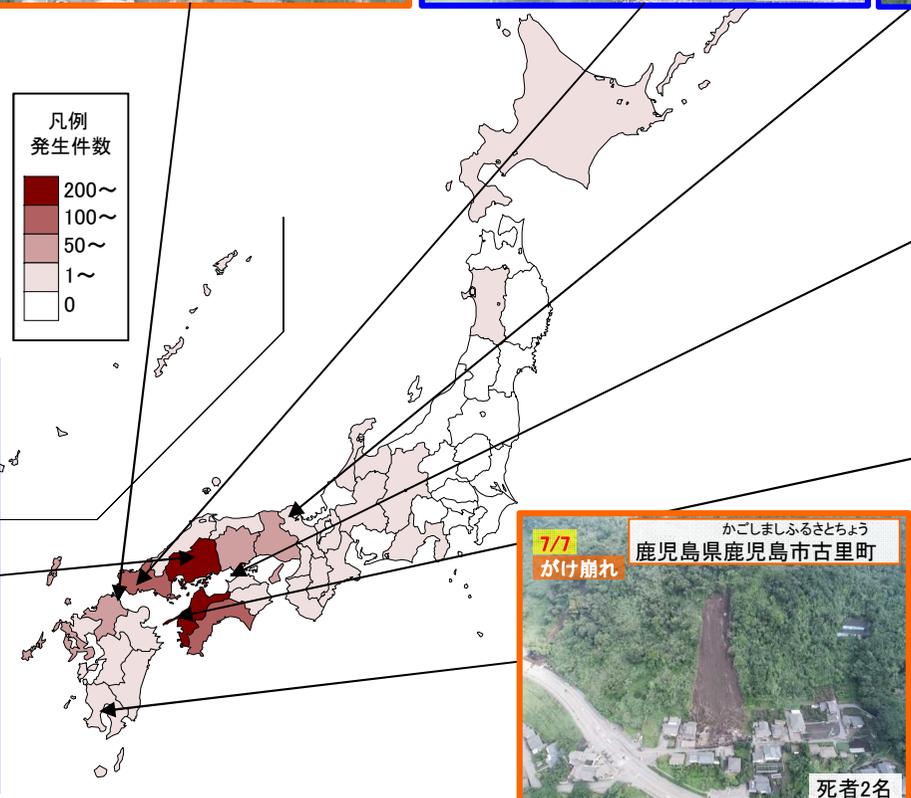
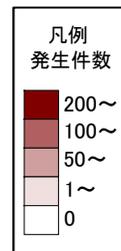
【被害状況】

人的被害 : 死者 119名
負傷者 29名
人家被害 : 全壊 213戸
半壊 340戸
一部損壊 290戸

※被害状況等については精査中

※1 近10年(H20~29)の平均土砂災害発生件数1,106件/年

※2 近10年(H20~29)の最大土砂災害発生件数1,514件/年<H29>

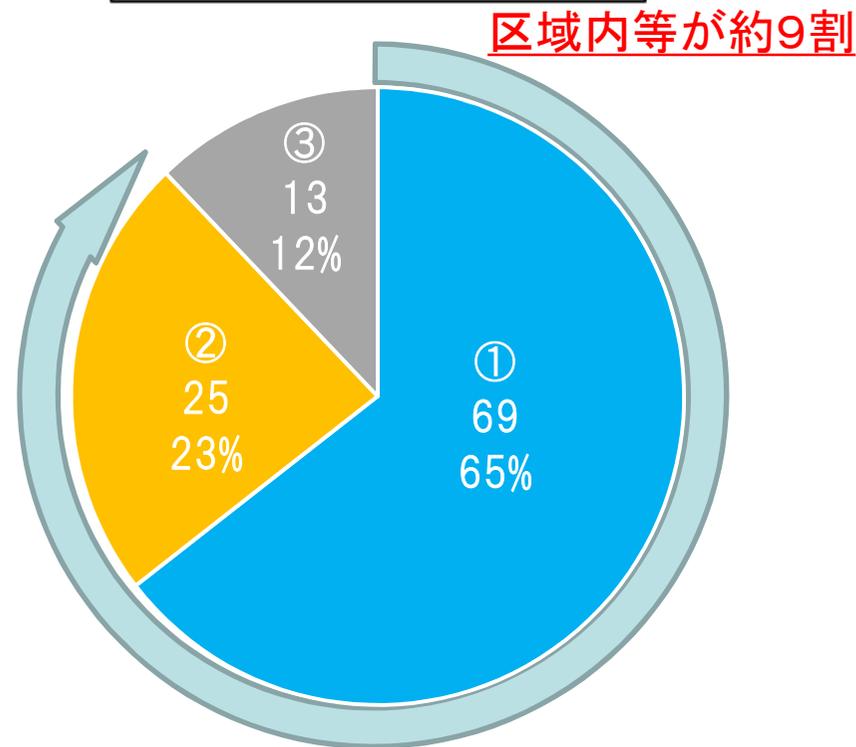


○土砂災害による死者・行方不明者は119名、このうち現時点で被災位置が特定できたのは107名、うち、**約9割（94名）は土砂災害警戒区域内等で被災**

※ 平成30年8月15日 13:00時点
 ※ 今後の精査により、情報が変わる可能性がある。



土砂災害による人的被害箇所における区域の状況



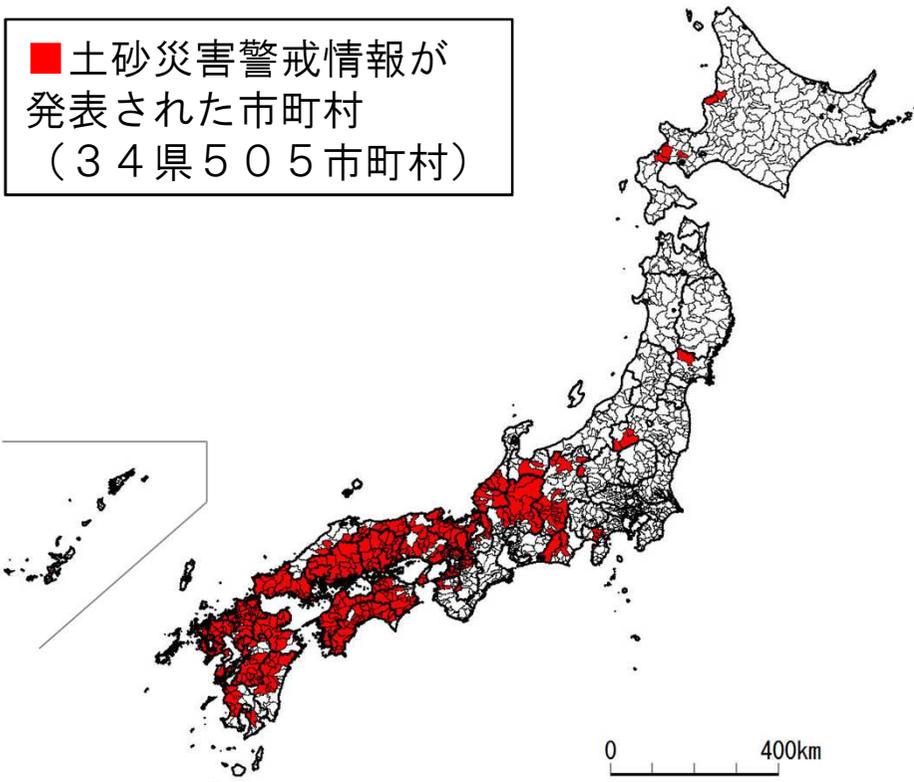
<凡例>土砂災害警戒区域
 ■ ①区域内 (警戒区域の指定又は基礎調査完了)
 ■ ②区域外 (基礎調査は未了だが土砂災害危険箇所として把握)
 ■ ③区域外 (上記以外)

第1回 平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害のあり方検討会資料より抜粋: 広島県提供

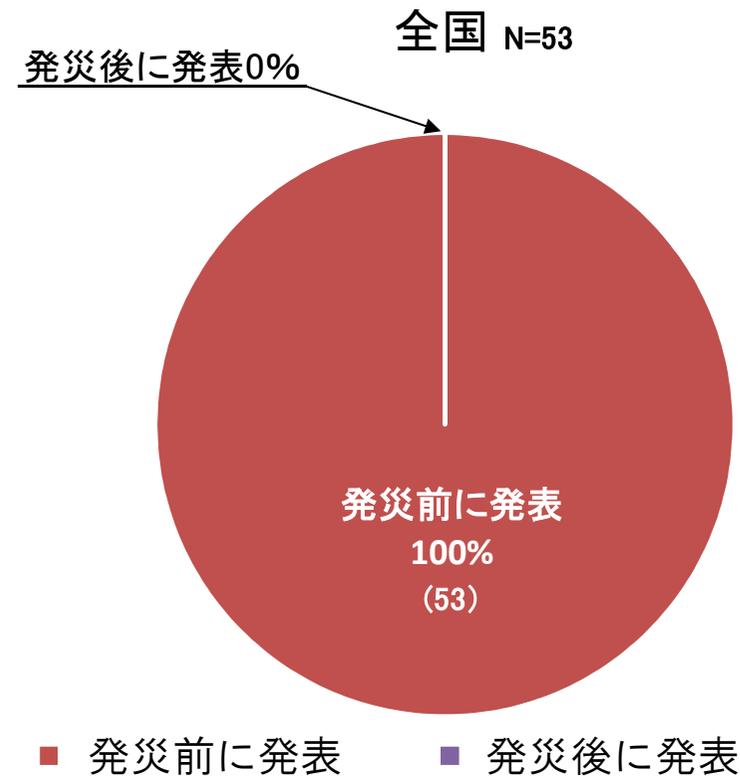
○人的被害（死者）が発生した53箇所のうち、発災時刻※が特定できた全箇所（53箇所）で、土砂災害発生前に土砂災害警戒情報が発表済み。

(※)災害発生時刻は報道情報等含む。

土砂災害警戒情報の発表状況 (平成30年7月2日～7月9日6:05)



土砂災害警戒情報の発表状況 (平成30年8月8日時点)



- ①西日本を中心に、広域的かつ同時多発的に水害・土砂災害が発生。
- ②今回の豪雨では、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域において、避難行動を促す情報が発令されていたにもかかわらず、人的被害が多く発生。
- ③被災者の多くが高齢者。